平成 21 年度～23 年度　習志野市事務事業評価表

1．事務事業基本情報

事業名	№93　実籾分遣所建替え事業					担当課	消防本部　総務課		予算費目名	款	項	目
										9	1	3
事業概要及び目的	昭和４０年代に建築され老朽化が進み、さらに化学車の配置等により狭隘化している実籾分遣所の建替えを行い、習志野市東部地区の拠点となる防災施設とする。	成果目標	成果指標	建替え完了		年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	
			計画値	土地購入 21.1%、基本設計 1.4% 実施設計 4.2%、建築 72%、解体 1.3%		予算額（単位：円）	150,000,000	7,956,700	0	27,944,000	
						決算額（単位：円）	108,169,167	6,825,000	0		
						従事職員数	2	2	2		
事業の位置づけ	章	3	安全で安心な暮らしができるまち	★左記施策（号）との結び付き 重要な防災拠点である実籾分遣所を建替ることにより、習志野市東部地区の防災体制を高めることができ、市民の安全･安心に寄与することができる。		従事延べ日数	104	106	10		
	節	1	安全で安心なもちづくりの推進			民間活力の導入	現状は？：□実現している　□将来可能性はある　□将来困難だが可能性はある　■余地なし				
	項	1	防災対策の充実				相手は？：□市民　□市民活動団体　□企業・学校等				
	号	2	消防・救急体制の充実				形態は？：				

2．進捗状況

年度	21 年度評価（20 年度実施した事項についての評価） 平成 21 年７月 27 日記入				22 年度評価（21 年度実施した事項についての評価） 平成２２年６月８日記入					23 年度評価（22 年度実施した事項についての評価） 平成 23 年４月 11 日記入				
実施計画上の予定	用地交渉	実施計画の予定年度終了後	用地買収	★継続している事項、未着手事項がある理由	実施計画上の予定	用地買収	実施計画の予定年度終了後	設計（基本設計）	★継続している事項、未着手事項がある理由	実施計画上の予定	設計（基本設計）	実施計画の予定年度終了後	設計（基本設計）	★継続している事項、未着手事項がある理由
完了した事項	・実籾分遣所の建替え用地取得 ・ ・				・基本設計の完了 ・ ・					・実施設計準備期間 ・ ・				
継続している事項	・ ・ ・				・ ・ ・					・ ・ ・				
未着手事項	・ ・ ・				・ ・ ・					・ ・ ・				
改善案				成果指標 実績値：用地取得完了 達成率：21.1%					成果指標 実績値：基本設計完了 達成率：22.5%					成果指標 実績値：0 達成率：0%

3．今後の方向性　※課内協議を経て管理職が記入してください。

	21 年度評価 平成 21 年７月 27 日協議実施	22 年度評価 平成 22 年６月９日協議実施	23 年度評価 平成 23 年４月 11 日協議実施
今後の方向性 ＊根拠欄は、なぜその「成果の方向性」を選んだか？なぜその「コストの方向性」をえらんだか？別紙「評価の視点」を参照してください。	成果の方向性：拡充 ○／現状維持／縮小／休廃止 コストの方向性：休廃止／縮小／現状維持／拡充	成果の方向性：拡充 ○／現状維持／縮小／休廃止 コストの方向性：休廃止／縮小／現状維持／拡充	成果の方向性：拡充 ○／現状維持／縮小／休廃止 コストの方向性：休廃止／縮小／現状維持／拡充
	★上記を選択した根拠 平成 20 年度に建替用隣接地を計画前倒しで取得し、21 年度中に基本設計を実施。22 年度の実施設計に向けてコストは拡充。	★上記を選択した根拠 平成 21 年度の基本設計を基に平成 22 年度は検討期間とし、予算計上はないものの事業は進行している平成 23 年度の実施設計に向けてコストは拡充。	★上記を選択した根拠 平成 22 年度は実施設計へ向けて準備期間とし、予算計上はないものの事業は進行している平成 23 年度の実施設計に向けてコストは拡充。
方向性を実現するため実施すること（改革案）	予算確保に努める。	予算確保に努める。	予算確保に努めると共に建替え計画検討プロジェクト及び消防本部長期計画検討プロジェクトを通じ、消防体制を計画し実施設計に向けて準備を進める。
前年度改革案の実施状況	□実施　□一部実施　□検討中　□その他　★実施以外は具体的に記載してください。	■実施　□一部実施　□検討中　□その他　★実施以外は具体的に記載してください。	■実施　□一部実施　□検討中　□その他　★実施以外は具体的に記載してください。